

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 利用者：80代 女性 要介護1

病名：Ⅱ型糖尿病、関節リウマチ、高血圧症、腎機能障害、腰椎圧迫骨折(2023.7.4)

2022年11月、糖尿病が悪化しご自宅で倒れているところをご主人の担当ケアマネジャーに発見され緊急入院。これを機にご主人は当施設本館入居となる。本人は状態安定し訪問介護サービスを利用しながら独居生活を続けるが2023年7月、腰椎圧迫骨折により再度入院。ADL低下著しく独居での生活は難しい状態となり、担当ケアマネジャーから相談を受けたことで2024年6月当施設入居。各部署職員の気持ちに寄り添った取組みによってリハビリに積極性を持ち、ご本人が望んでいた生活を当施設で実現することができた事例。

内 容

ご入居者は登山が趣味で体力には自信があるとのことで、入居当初に今後の希望を伺ったところ「もう一度歩けるようになりたい」「主人のそばにいて、できる範囲でお世話をしたい」とお話がありました。しかし、当時のご入居者は骨折の痛みと持病悪化によって歩行が困難かつ入浴や排泄に介助が必要でした。長年認知症のご主人をご自宅で介護してきた自分が要介護になった現実を受け入れられずふさぎ込んだご様子で、理学療法士がリハビリを開始するも立ち上がりや立位保持が難しくご入居者からは歩行を諦め今後の生活を悲観する発言が度々聞かれました。

これを受けた理学療法士は看護介護職員とご入居者の気持ちに寄り添いながら協力し、アロマケアやご夫婦の時間を増やすことを試みました。看護職員によるアロマケアを実施するとご入居者は表情を和らげリラックスした様子で好きな曲や俳優について話してくださいました。ご主人は突然立ち上がった時周囲に手を上げる危険があるため介護職員が適宜見守りや介助を行い、食事やレクリエーションにおいてご夫婦で過ごす時間がより多くなるよう努めました。その結果、ご入居者は照れつつも安心した笑顔を見せてくださるようになりました。笑顔が増えるにつれてご入居者のリハビリに対する積極性は高まり、理学療法士はリハビリ中に登山や近隣の山といった趣味についてお話しすることでADL改善の先にある楽しみや目標をイメージして頂くことを意識しました。

後ろ向きな発言が多かったご入居者の表情はすっかり明るくなり、同時にADL向上も認められました。納涼祭では職員のダンスにおどけた笑顔を見せ、敬老会では幸せそうな笑顔でご主人の車椅子を押し記念撮影に臨まれました。現在では毎食ご主人の車椅子を押し食堂に行くことを日課とし、来年の春にはハイキングへ行くため歩行可能距離を伸ばすべくリハビリに励んでいます。

一度は諦めかけるも、多くの職員が部署を越えてご入居者に笑顔を届けたことでADL向上につながり、ご本人が望んでいた生活を当施設で実現することができた今回の事例を、キラキラ介護賞として推薦します。